

国土交通省 四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所
高知県 土木部 港湾・海岸課

第7回 高知港海岸景観・利便性等検討会

議 事 概 要

I. 開催概要

日 時 : 令和3年3月2日(火) 13:30～15:30
場 所 : 高知城ホール 大会議室
出席者 : 以下のとおり

【委 員】

磯部 雅彦 (高知工科大学 学長)
重山 陽一郎 (高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻 教授)
原 忠 (高知大学 教育研究部 自然科学系 理工学部門 教授)
大倉 美知子 (カラーオフィス PERSONAL 代表)

【関 係 者】

山崎 雅昭 (高知県 土木部 港湾・海岸課 企画監) (代理出席)
森尾 祐二 (高知市 防災対策部 防災政策課 課長) (代理出席)
正源 陽一 (高知市 都市建設部 河川水路課 課長補佐) (代理出席)
古谷 直己 (高知市 商工観光部 観光振興課 課長補佐) (代理出席)
水口 幸司 (国土交通省 四国地方整備局 港湾空港部長)
小泉 勝彦 (国土交通省 四国地方整備局 高松港湾空港技術調査事務所 所長)

II. 議事概要

○『桂浜公園における整備計画等』に関する意見

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。（主に資料3に関連）

1. 高知県が計画する小型旅客船の発着場整備に賛同します。観光客がバス停で、桂浜行きのバスの本数が少ないことを嘆く場面に遭遇した。栈橋通五丁目の電停からの新たな移動手段としても期待している。
2. 桂浜は、年間約70万人が訪れる日本のなかでも有数の観光地。そこに隣接する堤防をきれいに使いやすく、景観・利便性を高めることで、桂浜を一体的に利用できるようにすれば、観光客の人達も今まで以上に満足するし、アクティビティもバラエティに富んだものになってくる。
3. 県外からの方を桂浜に案内し、本浜の岬に見える場所が擬岩である話をすると、皆驚かれる。最初の整備時点で、人工的に見える幾何学的なものを作らずに、自然の岩礁地帯にしか見えない擬岩としたことで、桂浜の景観が維持されている。このような考え方を継続的に、今回の堤防の検討においても、よく考えて計画、設計をしていくと良い。

○『桂浜公園における海岸保全施設整備の方向性について』

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。（主に資料4に関連）

◇整備コンセプトについて

1. 桂浜といえば龍馬、海援隊のイメージ。整備コンセプトに「龍馬スピリットを感じられる防潮堤」の追加を提案させて頂きたい。天端を歩く際のテーマ設定、デザインのモチーフに船の先端を採用、コンクリート色を帆船の帆をイメージした白に近いライトグレーを選ぶことで統一感が得られるのではないかと考えられる。
2. 高知県への観光客誘致には、今回の三重防護プロジェクトによる地震・津波対策が、安全・安心のおもてなしに繋がるのではないかと考えられる。
3. 整備コンセプトについて、今回の整備は、防災機能が重要な点であるため、この施設を整備することで、「安心・安全なまちづくりに貢献する」というような踏み込んだ内容として頂きたい。
4. 今回の整備は、防災教育の一貫としても活用できるのではないかと考えられる。整備箇

所の一部に港湾防災を学ぶ、必然的に学べるような場ができれば良い。

5. 今まで本浜だけが桂浜だと思っていた方が、今回の護岸や津波防波堤を造るということを通じて、東浜も観光の場として考えられるようになり、東浜の先の防波堤のところも利用面で生きてくるような所になる。津波防災事業ではあるが、利用面が空間的に広がっていく、桂浜を飛躍的に良い観光地にする良い機会だと思う。
6. 観光客の方に桂浜を広く廻っていただくという意味では、防波堤、護岸の端に何か魅力的なものを作り、そこを見に行くような工夫があると良いのではないかと考えられる。

◇護岸の形状について

7. 構造的な問題であるが、重力式護岸は景観面で単調でかつ、圧迫感が出てしまう側面がある。機能面を失わずに、何か構造体として景観面を改善するアイデアがあると思うので、検討頂きたい。
8. 東北の堤防整備の事例で気になる点が、単調な形状による分かりにくさや圧迫感である。亘理町の海岸堤防は、足元に緑化をしているが、少しの工夫で圧迫感を軽減している。今回の整備は、地域のランドマークとなるような施設も考えられるため、構造体に化粧をするだけに留まらず、周りの全体的な景観にも配慮した検討を進めて頂きたい。
9. これまでは、津波の議論をしているが、防災面では、高潮・高波のことも考慮する必要がある。L1 津波対応の堤防の天端はかなり高いが、台風で高潮・高波が発生した際に、天端の歩道は立ち入り禁止になるのか。高潮による越波量を予測している場合は教えて頂きたい。また、護岸に対して、平行方向に波が入ってきた場合、津波防波堤で波が反射し、北側護岸の波高が高くなるが生じてくると思うので確認して頂きたい。
10. 桂浜地区は、対岸の種崎地区と異なり、重力式のコンクリート本体を整備するとスペースがほぼなくなってしまい、設計条件が非常に厳しい。どうしてもむき出しの土木構造物そのものが、出てしまうという条件になる。土木構造物そのものをきれいに作るか、そのままに見せても嫌ではない見え方に整備する必要がある。ごまかすようなものではなく、どんと、見せても嫌ではないものになると良いと考えられる。
11. スロープや階段などの人が昇降する箇所については、人に優しいヒューマンスケールな感じでデザインできると良い。そうでない箇所は、ハイパースケールな感じの、構造物が否応なしに出てしまうが、あまり近くから見るといこともないため、ある程度引いて見た時にカッコいいものになると良いと考える。

◇避難計画との連動について

12. 避難計画については、桂浜公園全体の避難路（避難所に設定されている桂浜荘に速やかに避難できる動線）を兼ねた、バリアフリー利用動線の整備検討をお願いしたい。
13. 高知県は、最大クラスの津波が来襲した場合、津波高は極めて高い予測であるが、最も高い波が来襲するまでには時間があり、それまでに護岸よりも陸側に逃げられれば、その後の時間稼ぎは護岸でも可能と考えられる。その間に浦戸地区の桂浜荘まで避難が間に合うことが保証されればよいとため、確実なチェックをお願いしたい。

以上